

MJ進路通信：「進路指導室から、未来へ」



～ようこそ、アップデートされた4年目の案内所へ～

前橋女子高校進路指導部

令和8年度 第14号

令和8年6月8日(月)発行

■学習量増加キャンペーン実施中～ポイントは、3つの「ス」～

中間考査が終わり今週から平常の授業に戻りました。明日から学習時間調査が始まりますが、今回のテーマは「切り替え」です。中間考査の反省を踏まえ、次なる目標(期末考査)に向け、学校挙げて「**学習量増加キャンペーン**」を実施したいと思います。是非クラスや部活の仲間で刺激しあって学習に取り組みましょう。前回(4月)に行った学習時間調査の結果を見て各自の課題を洗い出し、より質の高い学習を目指しましょう。本校の課題を踏まえた学習量増加のポイントは以下の3点が挙げられます。

ス

- ① **学習のスタート時間をしっかり定めて実行しよう(時間の4点固定を)**
- ② **スキマ時間を見つけて学習時間の上乗せをはかろう**
- ③ **スマホ時間にけじめをつけよう(意識してスマホに触れない時間をつくろう)**

1日1日にテーマと目標をもって過ごしていきましょう!

■科目選択の下調べは、できていますか?

1・2年生は次年度の科目選択説明会がありました。来年度選択する科目(1年生は文理選択を含め)は最終的には受験時に使用する科目に直結します。「まだ急には決められないよ」という人も多いと思いますが、だからこそ、この時期にきちんと「**自分が何をを目指すのか**」「**そのためにどんなことを学べば良いのか**」を考える時間を確保してほしいと思います。**例年この時期にきちんと考えずに選択した生徒の多くに受験科目のミスマッチが生じています。**3年生には科目選択はもうありませんが、2学期以降の模試では「どの教科を受験するのか」をしっかりと確認しておく必要があります。第一志望に必要な科目だけしか見ていないと、予定通りに行かなかったり気持ちに変化があったりしたときに対応できなくなる可能性もあります。同じような大学でも、受験科目に違いがあれば簡単に志望校を変えることができません。受験に関するあらゆる可能性を想定し、独りよがりの決断にならないようにしたいですね。担任や教科の先生ともよく相談し、かつ自分でよく調べて選択の準備をしてください。

■オープンキャンパスに、行ってみよう

現在多くの大学からオープンキャンパス(OC)の案内が届いています(一部は進路指導室前に掲示してあります)。これから夏休みにかけて各大学のOCが盛んになりますが、その大学の雰囲気を知るには非常に有効な機会です。興味のある大学については是非OCに足を運んでみることをお勧めします。大学の教育内容はもちろんですが、キャンパスや学生の雰囲気、街の様子なども見ることで大学というものをもっと身近に感じられると思います。ナビジョンのサイトなどでOCの情報を入手できますので、部活や補習の日程と調整しながらOCの計画を立ててみましょう(都合があればチームOGの協力も依頼できます)。

また、進路指導室前の廊下ある掲示板では、大学から寄せられた様々な案内を掲示しています。職員室から見て最も手前の掲示板には、主に奨学金等に関する情報を掲示しました(奨学金制度は多くの大学で採用しており掲示してあるのはその一部です)。また、その奥にはオープンキャンパス情報と、特別入試のピラを掲示しています。進路指導室を訪れた際などにチェックしてみましょう。

(MJボロシャツバージョン)

オープンキャンパスは、見どころをしっかり押さえることが大事!

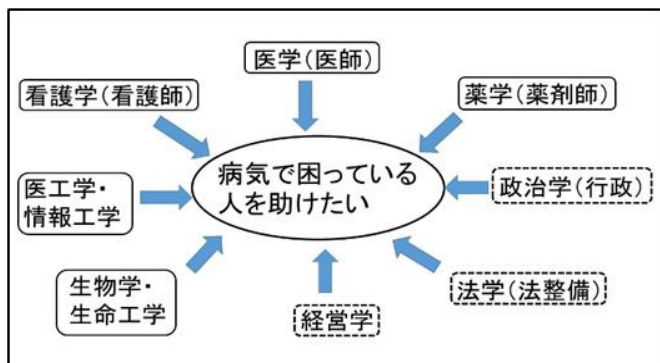


■コース選択の決定にあたって

1年生の皆さんへ。文理選択の時期になりました。入学して半年も経っていないのに、もう将来の進路を決める大きな決断を迫られるなんて、と感じる人は多いと思います。しかも、現在の教育課程では一度文理を選択してしまうと、途中でそのコースを変更して授業を受けることが事実上不可能な状況にあります。だからこそ、この最終決定にあたっては、よく考えて後悔のない選択をしてほしいと考えます。そのために、進路指導の観点からお伝えしたいことをまとめてみました。もう決まっている、という人も含めて、改めて自分の進路について考える機会にしてほしいと思います。

目指す夢へのアプローチは、1つではない

「困っている人の役に立ちたいから医者になりたい」。本校の生徒は、「誰かの役に立ちたい」という気持ちをもつ人がとても多いと思います。素敵なことです。ですが、「人の役に立たない」仕事って、あるんでしょうか？（人の役に立つから「仕事」が成立するんですよ）。だからこそ、皆さんには、「どのような形で世の中に貢献するか」まで考えてほしいと思っています。例えば、「病気で困っている人を助けたい」人が真っ先に思い浮かぶ仕事は「医師」かもしれませんが、同じ夢を実現するためのアプロ



ーチ方法は実際にはいろいろあります。患者の負担を軽減する医療機器を開発したり、新薬やウイルスの研究をしたり、法整備を行ってさまざまな医療問題を解決したり、など様々。そこに文理の壁はありません。むしろ、複数のプロフェッショナルが力を合わせないと解決できないほど現代の諸問題は複雑化しているともいえます。夢の実現のためには現在考える道筋のほかにもどんな選択肢があるのか、これをしっかり考えてほしい。その結果「やっぱりこの進路がいい」とうことであれば目指せばいい。ですが、様々な候補をきちんと比較した上での決断にしてほしいと思います。

そして、もう1つ。皆さんは、世の中にある仕事のほんの一部しかまだ知らない、ということ。

- ・アクチュアリー ・言語聴覚士
- ・インダストリアルデザイナー

例えばこんな仕事、皆さんは知っていますか？実は今皆さんはほんの一部の選択肢から仕事を選ぼうとしていると言えます。皆さんが知らない仕事のなかに、もっと向いている仕事があるかもしれないのです。そして、AIの進化等に伴い、今はあっても10年後にはなくなっている仕事や、逆に新たに生まれてくる仕事がたくさんあります。「初志貫徹弁護士を目指します」も立派ですが、それでも、自分の力を最大限発揮できる仕事を探し続ける姿勢も大切です。そういう意味では、第一志望というのは、「それがベストなのか」を常に検討、模索し続けるものである、とも言えます。

適性って？

「医師の適性」「教師の適性」「外交官の適性」。「適性」って、よく聞きますが、そもそも高校生の皆さんにその「適性」があるかなんて、果たして誰が判断できるのでしょうか。適性があるかどうか分からないけど、仕事を続けていくうちにその適性が身についていく、ってことだってあるはずですよ。だったら、今の皆さんが身につけるべき「適性」とは？それは、「目標実現のためにやらなければならない課題から逃げないこと」です。文系なのに英語が苦手（理系なのに数学が苦手）でしかも克服のために何か努力をしている訳でもない（逃げたまま）。だとすればそれは「適性がない」と判断されても仕方ないでしょう。選択をする、ということはもう言い訳をしない、逃げない、と覚悟を決めるということでもあるのです。

セカンドオピニオンが聞ける人は、失敗しない

文理選択にあたり、苦手科目の存在が悩みの種になることもあります。そんな人は担任や教科の先生に相談してほしいと思います。以前、数学の苦手を心配されつつ頑なに理系を選んだ生徒が3年次に結局文系の大学を受験することとなり、その時に言い放った言葉が「あの時先生がもっと強く文系を勧めてくれたら文系にしていたかもしれない（ちなみに担任は心配して何度も面接でアドバイスをしていましたが当時その生徒には聞く耳をもってもらえなかったそうです。責任転嫁も甚だしいです）」。大きな選択をするにあたり、「私もう決めたから」と「聞く耳を持たない」生徒が実は危険なんです。見通しのないまま見切り発車してしまう可能性があるからです。最終判断は自分でするにせよ、セカンドオピニオン、サードオピニオンを受け入れる度量のある生徒は、紆余曲折あっても最終的には納得のいく選択ができることが多いです。進路選択に少しでも不安のある生徒は、担任や教科担当の先生によく話を聞いてもらってください。